

# FXクラウドシリーズ

---

## マスター情報読込マニュアル

第15版

(最終更新日:令和7年6月20日)



## 目次

I	読込データレイアウト.....	1
1.	取引先情報ファイル読込データレイアウト.....	1
2.	商品情報ファイル読込データレイアウト.....	28
3.	手形情報ファイル読込データレイアウト.....	39
4.	電子記録債権情報ファイル読込データレイアウト.....	44
5.	開始勘定科目残高読込データレイアウト.....	50
6.	得意先別商品単価(得意先毎)読込データレイアウト.....	52
7.	得意先別商品単価(商品毎)読込データレイアウト.....	54
8.	売上単価予約読込データレイアウト.....	56
9.	得意先別商品単価(得意先毎)予約読込データレイアウト.....	58
10.	得意先別商品単価(商品毎)予約読込データレイアウト.....	60
11.	実地棚卸読込データレイアウト.....	62
12.	工事読込データレイアウト.....	64
13.	勘定科目情報読込データレイアウト.....	70
14.	口座別管理科目情報読込データレイアウト.....	73
15.	取引先別管理科目情報読込データレイアウト.....	74
16.	資金相手科目情報読込データレイアウト.....	75
17.	内訳区分情報読込データレイアウト.....	77
18.	科目別課税区分読込データレイアウト.....	78
II	注意事項 .....	80
1.	Excel で CSV データを扱う際の注意事項 .....	80

## I 読込データレイアウト

### 1. 取引先情報ファイル読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(共通)]-[マスター情報]-[取引先]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1行目：タイトル部>

1行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(取引先コード, 取引先名…)

<2行目～：取引先情報部>

(1) A列：取引先コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999998 (ただし、先頭にゼロを含む6桁の形式「000001」なども許容する)

説明：取引先コードをセットします。

入力値は内部的に数値として扱いますが、画面上は先頭にゼロを含む6桁の形式で表示されます (例：1 → 000001, 123 → 000123)。

(2) B列：取引関係

TYPE：数値

有効値：「1」(得意先)、「2」(仕入先)、「3」(得意先+仕入先)、「4」(その他)のいずれかをセットします。省略した場合は「4」で読み込まれます。

説明：取引関係をセットします。

(3) C列：表示順(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999999

説明：取引先一覧画面に表示する順番をセットします。

- (4) D列： 法人番号  
TYPE：文字  
有効値：半角13文字(数字のみ)  
説明：法人番号をセットします。
- (5) E列： 適格請求書発行事業者の登録番号  
TYPE：文字  
有効値：T+半角13文字(数字のみ)  
説明：適格請求書発行事業者番号をセットします。
- (6) F列： 取引先名  
TYPE：文字  
桁数：全角16文字（半角32文字）以内  
説明：取引先名をセットします。
- (7) G列： 取引先名フリガナ  
TYPE：文字  
桁数：全角20文字(半角40文字)以内  
説明：取引先名フリガナをセットします。
- (8) H列： 頭文字  
TYPE：文字  
桁数：全半角2文字以内  
説明：取引先の頭文字をセットします。
- (9) I列： 営業所名  
TYPE：文字  
桁数：全角16文字（半角32文字）以内  
説明：営業所名をセットします。
- (10) J列： 営業所名フリガナ  
TYPE：文字  
桁数：全角20文字（半角40文字）以内  
説明：営業所名フリガナをセットします。
- (11) K列： 敬称  
TYPE：文字  
桁数：全角2文字以内  
説明：「御中」「様」「先生」「殿」「」（なし）いずれかをセットします。
- (12) L列： 取引開始日  
TYPE：日付  
説明：西暦年月日をセットします。  
例：令和4年6月5日=2022/06/05

(13)M列：設立日

TYPE：日付

説明：西暦年月日をセットします。

例：令和4年6月5日=2022/06/05

(14)N列：取引関係(内訳書用)

TYPE：文字

桁数：全角5文字(半角10文字)以内

説明：科目内訳書と連動する「法人・代表者との関係」をセットします。

例：「得意先」、「仕入先」、「関係会社」、「役員」、「株主」、「従業員」、「」（なし）

(15)O列：代表者肩書

TYPE：文字

桁数：全角10文字(半角20文字)以内

説明：代表者の肩書をセットします。

例：「社長」、「支店長」、「所長」、「専務」、「常務」、「部長」、「課長」、「代表取締役」、  
「」（なし）

(16)P列：代表者氏名

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：代表者氏名をセットします。

(17)Q列：代表者生年月日

TYPE：日付

説明：西暦年月日をセットします。

例：令和4年6月5日=2022/06/05

(18)R列：代表者性別

TYPE：文字

有効値：「M」（男性）、「F」（女性）のいずれかをセットします。省略した場合は「M」で読み込まれます。

説明：代表者の性別をセットします。

(19)S列：重点顧客か否か

TYPE：文字

有効値：「1」（重点顧客）、「0」（重点顧客以外）のいずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：重点顧客に該当するか否かをセットします。重点顧客とした場合、得意先順位月報メニューで絞り込み表示が可能となります。

(20)T列：郵便番号

TYPE：文字

有効値：半角7文字以内(数字のみ)

説明：郵便番号をセットします。

(21)U列：住所1

TYPE：文字

桁数：全角20文字（半角40文字）以内

説明：住所については画面上、3行表示となります。1行目についてセットします。

(22)V列：住所2

TYPE：文字

桁数：全角20文字（半角40文字）以内

説明：住所については画面上、3行表示となります。2行目についてセットします。

(23)W列：住所3

TYPE：文字

桁数：全角20文字（半角40文字）以内

説明：住所については画面上、3行表示となります。3行目についてセットします。

(24)X列：電話番号1(代表)

TYPE：文字

桁数：半角20文字以内（数字、+、-）

説明：代表の電話番号をセットします。

(25)Y列：電話番号2

TYPE：文字

桁数：半角20文字以内（数字、+、-）

説明：電話番号2をセットします。

(26)Z列：FAX番号

TYPE：文字

桁数：半角20文字以内（数字、+、-）

説明：FAX番号をセットします。

(27)AA列：ホームページ

TYPE：文字

桁数：50文字以内

説明：ホームページのURLをセットします。

(28)AB列：Eメール

TYPE：文字

桁数：50文字以内

説明：Eメールアドレスをセットします。

(29)AC列：先方担当者肩書

TYPE：文字

桁 数：全角10文字（半角20文字）以内  
説 明：先方担当者の肩書をセットします。  
例 ：社長、部長、課長、係長、その他

(30)AD列：先方担当者氏名

TYPE：文字

桁 数：全角12文字（半角24文字）以内  
説 明：先方担当者氏名をセットします。

(31)AE列：先方担当者敬称

TYPE：文字

桁 数：全角2文字以内  
説 明：「様」「先生」「殿」いずれかをセットします。省略した場合は「様」で読み込まれます。

(32)AF列：先方担当者電話番号

TYPE：文字

桁 数：半角20文字以内（数字、+、-）  
説 明：先方担当者の電話番号をセットします。

(33)AG列：先方担当者携帯番号

TYPE：文字

桁 数：半角20文字以内（数字、+、-）  
説 明：先方担当者の携帯電話番号をセットします。

(34)AH列：先方担当者Eメール

TYPE：文字

桁 数：50文字以内  
説 明：先方担当者のEメールアドレスをセットします。

(35)AI列：販管-請求種別

TYPE：数値

有効値：「0」（都度請求）、「1」（締日請求）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説 明：「締日請求」「都度請求」いずれかをセットします。

(36)AJ列：販管-担当者社員番号

TYPE：数値

有効値：1～9999999  
説 明：社員マスターに登録済みの社員の社員番号をセットします。

(37)AK列：販管-与信限度額

TYPE：数値

有効値：-99,999,999,999～99,999,999,999

説 明：与信限度額をセットします。

(38)AL列： 販管-債権区分

TYPE：文字

桁 数：全角15文字（半角30文字）以内

(39)AM列：販管-消費税等の転嫁方式

TYPE：数値

有効値：「1」（外税/納品時）、「2」（内税）、「3」（外税/請求時）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説 明：消費税転嫁方式をセットします。

(40)AN列：販管-消費税等の端数処理を自社の設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（自社の設定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説 明：消費税の端数処理を自社の設定と同じにするか個別に指定するかセットします。

(41)AO列：販管-消費税等の端数処理(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（円未満四捨五入）、「2」（円未満切り捨て）、「3」（円未満切り上げ）のいずれかをセットします。「販管-消費税等の端数処理を自社の設定に従うか」が「0」の場合は必須項目となります。

説 明：消費税等の端数処理方法をセットします。

(42)AP列：販管-事業区分を自社の設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（自社の設定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説 明：事業区分を自社の設定と同じにするか個別に指定するかセットします。

(43)AQ列：販管-事業区分(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（卸売り分）、「2」（小売り分）、「3」（製造建設）、「4」（その他）、「5」（サービス等）、「6」（不動産）のいずれかをセットします。「販管-事業区分を自社の設定に従うか」が「0」の場合は必須項目となります。

説 明：事業区分をセットします。商品ごとに事業区分が設定されていない場合は、売上伝票で商品明細を入力する際の初期値となります。

(44)AR列：販管-国内/輸出

TYPE：数値

有効値：「0」（輸出免税）、「1」（国内取引）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：「国内取引」「輸出免税」のいずれかをセットします。売上傳票入力時の初期値となります。

(45) AS列：販管-源泉徴収義務

TYPE：数値

有効値：「0」（なし）、「1」（あり）のいずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：得意先の源泉徴収義務をセットします。

(46) AT列：販管-明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（自社の設定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定と同じにするか個別に指定するかセットします。

(47) AU列：販管-明細金額(数量×単価)の端数処理(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（円未満四捨五入）、「2」（円未満切り捨て）、「3」（円未満切り上げ）のいずれかをセットします。「販管-明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定に従うか」が「0」の場合は必須項目となります。

説明：明細金額(数量×単価)の端数処理方法をセットします。

(48) AV列：販管-単価掛け率を利用するか

TYPE：数値

有効値：「0」（利用しない）、「1」（利用する）のいずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：単価掛け率の利用有無をセットします。

(49) AW列：販管-単価掛け率

TYPE：数値

有効値：1～9,999

説明：得意先ごとの単価掛け率をセットします。ただし、「販管-単価掛け率を利用するか」が「0」の場合は、何をセットしても無視されます。

(50) AX列：販管-掛/現金

TYPE：数値

有効値：「1」（掛売上）、「2」（現金売上）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：「掛売上」「現金売上」のいずれかをセットします。売上傳票入力時の初期値となります。

(51)AY列：販管-メモ1

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：得意先に対する「メモ」をセットします。

(52)AZ列：販管-メモ2

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：得意先に対する「メモ」をセットします。

(53)BA列：販管-メモ3

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：得意先に対する「メモ」をセットします。

(54)BB列：販管-売上インボイス-掛売上

TYPE：数値

有効値：「1」（未定）、「2」（納品書）、「3」（請求書）、「5」（その他の書類）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：掛売上の場合に売上インボイスとする書類をセットします。自社の登録番号が登録済みの場合、設定した書類に登録番号等が印刷されます。

(55)BC列：販管-売上インボイス-現金売上

TYPE：数値

有効値：「1」（未定）、「2」（納品書）、「4」（領収書）、「5」（その他の書類）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：現金売上の場合に売上インボイスとする書類をセットします。自社の登録番号が登録済みの場合、設定した書類に登録番号等が印刷されます。

(56)BD列：販管-請求先(\*)

TYPE：数値

有効値：1~999998

説明：親子請求を利用する場合に、請求先とする取引先コードをセットします。親子請求を利用しない場合は、自身と同じ取引先コードをセットします。

(57)BE列：販管-請求書を発行するか

TYPE：数値

有効値：「0」（発行しない）、「1」（発行する）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(58)BF列：販管-請求書に繰越高を表示するか

TYPE：数値

有効値：「0」（表示しない）、「1」（表示する）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれますが、次のいずれかに該当する場合は「0」で読み込まれます。

- ①「請求種別」が「都度請求」の場合
- ②「請求書」が「印刷しない」の場合

(59)BG列：販管-送付用を発行するか

TYPE：数値

有効値：「0」（発行しない）、「1」（発行する）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(60)BH列：販管-請求書に表示する振込口座を請求書フォームの設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に設定する）、「1」（請求書フォームの設定の振込口座に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(61)BI列：販管-振込口座1-金融機関コード

TYPE：数値

有効値：0000～9999

説明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする金融機関コードをセットします。なお、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(62)BJ列：販管-振込口座1-支店コード

TYPE：数値

有効値：000～999

説明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座1-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(63)BK列：販管-振込口座1-口座番号

TYPE：数値

有効値：0000000～9999999

説明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座1-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視

されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(64)BL列：販管-振込口座2-金融機関コード

T Y P E：数値

有 効 値：0000～9999

説 明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする金融機関コードをセットします。なお、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(65)BM列：販管-振込口座2-支店コード

T Y P E：数値

有 効 値：000～999

説 明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座2-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(66)BN列：販管-振込口座2-口座番号

T Y P E：数値

有 効 値：0000000～9999999

説 明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座2-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(67)B0列：販管-振込口座3-金融機関コード

T Y P E：数値

有 効 値：0000～9999

説 明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする金融機関コードをセットします。なお、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(68)BP列：販管-振込口座3-支店コード

T Y P E：数値

有 効 値：000～999

説明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座3-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(69)BQ列：販管-振込口座3-口座番号

TYPE：数値

有効値：0000000～9999999

説明：「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「0」の場合のみ有効です。自社の振込口座（入金口座）とする支店コードをセットします。なお、「振込口座3-金融機関コード」を省略した場合、当項目は無視されます。また、「販管-請求書に印刷する振込口座を請求書フォームの設定に従うか」が「1」の場合、何をセットしても無視されます。

(70)BR列：販管-フォーム-見積書

TYPE：数値

有効値：1

説明：使用する見積書フォームのコードをセットします。現時点で登録可能な見積書のフォームは「1」のみのため、「1」をセットします。

(71)BS列：販管-フォーム-納品書

TYPE：数値

有効値：1～3

説明：使用する納品書フォームのコードをセットします。

(72)BT列：販管-フォーム-請求書

TYPE：数値

有効値：1～4

説明：使用する請求書フォームのコードをセットします。

(73)BU列：販管-フォーム-領収書

TYPE：数値

有効値：1～2

説明：使用する領収書フォームのコードをセットします。

(74)BV列：販管-発行方法-見積書

TYPE：数値

有効値：1～2

説明：「1」（印刷）、「2」（電子）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(75)BW列：販管-発行方法-納品書(掛売上)

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(印刷)、「2」(電子)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(76)BX列 : 販管-発行方法-納品書(現金売上)

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(印刷)、「2」(電子)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(77)BY列 : 販管-発行方法-請求書

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(印刷)、「2」(電子)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(78)BZ列 : 販管-発行方法-領収書

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(印刷)、「2」(電子)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(79)CA列 : 入金-主たる約定に従うか

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(主たる約定に従う)、「0」(個別に指定)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(80)CB列 : 入金-締日 1

TYPE : 数値

有効値 : 0~31(0は末日)

説明 : 取引先の締日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例 : 31日の場合「31」、末日の場合「0」

(81)CC列 : 入金-回収サイト 1

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(当月)、「1」(翌月)、「2」(2か月後)、「3」(3か月後)、「4」(4か月後)、「5」(5か月後)、「6」(6か月後)のいずれかをセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

(82)CD列 : 入金-回収日 1

TYPE : 数値

有効値 : 0~31(0は末日)

説明 : 取引先の回収日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例 : 31日の場合「31」、末日の場合「0」

(83)CE列：入金-締日 2

TYPE：数値

有効値：0～31(0は末日)

説明：取引先の締日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：31日の場合「31」、末日の場合「0」

(84)CF列：入金-回収サイト 2

TYPE：数値

有効値：「0」(当月)、「1」(翌月)、「2」(2か月後)、「3」(3か月後)、「4」(4か月後)、「5」(5か月後)、「6」(6か月後)いずれかをセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

(85)CG列：入金-回収日 2

TYPE：数値

有効値：0～31(0は末日)

説明：取引先の回収日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：31日の場合「31」、末日の場合「0」

(86)CH列：入金-締日 3

TYPE：数値

有効値：0～31(0は末日)

説明：取引先の締日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：31日の場合「31」、末日の場合「0」

(87)CI列：入金-回収サイト 3

TYPE：数値

有効値：「0」(当月)、「1」(翌月)、「2」(2か月後)、「3」(3か月後)、「4」(4か月後)、「5」(5か月後)、「6」(6か月後)いずれかをセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

(88)CJ列：入金-回収日 3

TYPE：数値

有効値：0～31(0は末日)

説明：取引先の回収日をセットします。但し、「入金-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：31日の場合「31」、末日の場合「0」

(89)CK列：入金-振込手数料

TYPE：数値

有効値：「0」（先方負担）、「1」（当方負担）のいずれかをセットします。省略した場合は主たる約定の値で読み込まれます。

(90)CL列：入金-金融機関が休日の場合の入金日

TYPE：数値

有効値：「1」（前営業日）、「2」（翌営業日）、「3」（予定日通り）のいずれかをセットします。省略した場合は「3」で読み込まれます。

(91)CM列：入金-回収方法

TYPE：数値

有効値：「0」（割合で決定）、「1」（金額で決定）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

(92)CN列：入金-回収方法を金額で決定する場合の金額

TYPE：数値

有効値：0~99999999999

説明：金額で決定する場合の境界値をセットします。カンマ編集は行わないでください。省略した場合は0がセットされます。「入金-回収方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

(93)CO列：入金-金額を超えた場合の回収方法

TYPE：数値

有効値：「1」（円を超える額）、「2」（円超は全額）いずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。「入金-回収方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

(94)CP列：入金-未超過の場合の回収方法

TYPE：数値

有効値：「1」（現金入金）、「2」（預金入金）、「3」（自動回収）、「4」（手形受入）、「5」（電債受入）いずれかをセットします。省略した場合は「2」で読み込まれます。「入金-回収方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

(95)CQ列：入金-超過の場合の回収方法

TYPE：数値

有効値：「1」（現金入金）、「2」（預金入金）、「3」（自動回収）、「4」（手形受入）、「5」（電債受入）いずれかをセットします。省略した場合は「2」で読み込まれます。「入金-回収方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

(96)CR列：入金-割合で決定する場合の現金入金割合

TYPE：数値

有効値：0~100

説明：入金額のうち、現金入金の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金入金」「預金入金」「自動集金」「手形受入」「電債受入」の

合計が 100 になる必要があります。「入金-回収方法」が「2」の場合のみ設定  
します。他の場合は無視します。

(97)CS列：入金-割合で決定する場合の預金入金割合

TYPE：数値

有効値：0～100

説明：入金額のうち、預金入金の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み  
込まれます。「現金入金」「預金入金」「自動集金」「手形受入」「電債受入」の  
合計が 100 になる必要があります。「入金-回収方法」が「2」の場合のみ設定  
します。他の場合は無視します。

(98)CT列：入金-割合で決定する場合の自動集金割合

TYPE：数値

有効値：0～100

説明：入金額のうち、自動集金の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み  
込まれます。「現金入金」「預金入金」「自動集金」「手形受入」「電債受入」の  
合計が 100 になる必要があります。「入金-回収方法」が「2」の場合のみ設定  
します。他の場合は無視します。

(99)CU列：入金-割合で決定する場合の手形受入割合

TYPE：数値

有効値：0～100

説明：入金額のうち、手形受入の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み  
込まれます。「現金入金」「預金入金」「自動集金」「手形受入」「電債受入」の  
合計が 100 になる必要があります。入金-回収方法」が「2」の場合のみ設定し  
ます。他の場合は無視します。

(100)CV列：入金-割合で決定する場合の電債受入割合

TYPE：数値

有効値：0～100

説明：入金額のうち、電債受入の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み  
込まれます。「現金入金」「預金入金」「自動集金」「手形受入」「電債受入」の  
合計が 100 になる必要があります。入金-回収方法」が「2」の場合のみ設定し  
ます。他の場合は無視します。

(101)CW列：購買-担当者社員番号

TYPE：数値

有効値：1～9999999

説明：社員マスターに登録済みの社員の社員番号をセットします。

(102)CX列：購買-消費税等の転嫁方式

TYPE：数値

有効値：「1」（外税/納品時）、「2」（内税）、「3」（外税/請求時）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：消費税転嫁方式をセットします。

(103)CY列：購買-消費税等の端数処理を自社の設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（自社の設定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：消費税の端数処理を自社の設定と同じにするか個別に指定するかセットします。

(104)CZ列：購買-消費税等の端数処理(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（円未満四捨五入）、「2」（円未満切り捨て）、「3」（円未満切り上げ）のいずれかをセットします。「購買-消費税等の端数処理を自社の設定に従うか」が「0」の場合は必須項目となります。

説明：消費税等の端数処理方法をセットします。

(105)DA列：購買-国内/輸入

TYPE：数値

有効値：「0」（輸入）、「1」（国内取引）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：「国内取引」「輸入」のいずれかをセットします。仕入伝票入力時の初期値となります。

(106)DB列：購買-明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（自社の設定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定と同じにするか個別に指定するかセットします。

(107)DC列：購買-明細金額(数量×単価)の端数処理(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（円未満四捨五入）、「2」（円未満切り捨て）、「3」（円未満切り上げ）のいずれかをセットします。「購買-明細金額(数量×単価)の端数処理を自社の設定に従うか」が「0」の場合は必須項目となります。

説明：明細金額(数量×単価)の端数処理方法をセットします。

(108)DD列：購買-掛/現金

TYPE：数値

有効値：「1」（掛仕入）、「2」（現金仕入）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

説明：「掛仕入」「現金仕入」のいずれかをセットします。仕入伝票入力時の初期値となります。

(109)DE列：購買-メモ1

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：仕入先に対する「メモ」をセットします。

(110)DF列：購買-メモ2

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：仕入先に対する「メモ」をセットします。

(111)DG列：購買-メモ3

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：得意先に対する「メモ」をセットします。

(112)DH列：支払-主たる約定に従うか

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に指定）、「1」（主たる約定に従う）のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(113)DI列：支払-締日

TYPE：数値

有効値：0～31（0は末日）

説明：取引先の締日をセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：20日の場合「20」、末日の場合「0」

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(114)DJ列：支払-支払サイト

TYPE：数値

有効値：「0」（当月）、「1」（翌月）、「2」（2か月後）、「3」（3か月後）、「4」（4か月後）、「5」（5か月後）、「6」（6か月後）いずれかをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(115)DK列：支払-支払日

TYPE：数値

有効値：0～31(0は末日)

説明：取引先の回収日をセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：31日の場合「31」、末日の場合「0」

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(116)DL列：支払-振込手数料

TYPE：数値

有効値：「0」(先方負担)、「1」(当方負担)のいずれかをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。省略した場合は「1」で読み込まれます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(117)DM列：支払-振込区分

TYPE：数値

有効値：「0」(電信)、「1」(文書)のいずれかをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。省略した場合は「0」で読み込まれます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(118)DN列：支払-振込手数料の計算方法

TYPE：数値

有効値：「1」(据置型)、「2」(未満手数料加算型)、「3」(以上手数料加算型)のいずれかをセットします。但し、「支払-振込手数料」が「1」の場合は無視されます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(119)DO列：支払-金融機関が休日の場合の支払日

TYPE：数値

有効値：「1」(前営業日)、「2」(翌営業日)、「3」(予定日通り)のいずれかをセットします。省略した場合は「3」で読み込まれます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(120)DP列：支払-支払方法

TYPE：数値有効値：「0」(割合で決定)、「1」(金額で決定)のいずれかをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。省略した場合は「1」で読み込まれます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(121)DQ列：支払-支払方法を金額で決定する場合の金額

TYPE：数値

有効値：0～9999999999

説 明：金額で決定する場合の境界値をセットします。カンマ編集は行わないでください。省略した場合は0がセットされます。「支払-支払方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(122)DR列：支払-金額を超えた場合の支払方法

T Y P E：数値

有効値：「1」（円を超える額）、「2」（円超は全額）いずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。「支払-支払方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(123)DS列：支払-未超過の場合の支払方法

T Y P E：数値

有効値：「1」（現金支払）、「2」（預金振込）、「3」（自動引落）、「4」（手形振出）、「5」（電債振出）、「6」（電債譲渡）いずれかをセットします。省略した場合は「2」がセットされます。「支払-支払方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(124)DT列：支払-超過の場合の支払方法

T Y P E：数値

有効値：「1」（現金支払）、「2」（預金振込）、「3」（自動引落）、「4」（手形振出）、「5」（電債振出）、「6」（電債譲渡）いずれかをセットします。省略した場合は「2」がセットされます。「支払-支払方法」が「1」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(125)DU列：支払-割合で決定する場合の現金支払割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、現金支払の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が100になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(126)DV列：支払-割合で決定する場合の預金振込割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、預金振込の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み

込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が 100 になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(127)DW列：支払-割合で決定する場合の自動引落割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、自動引落の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が 100 になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(128)DX列：支払-割合で決定する場合の手形振出割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、手形振出の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が 100 になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(129)DY列：支払-割合で決定する場合の電債振出割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、電債振出の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が 100 になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(130)DZ列：支払-割合で決定する場合の電債譲渡割合

T Y P E：数値

有効値：0~100

説 明：支払額のうち、電債譲渡の割合をセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。「現金支払」「預金支払」「自動引落」「手形振出」「電債振出」「電債譲渡」の合計が 100 になる必要があります。「支払-支払方法」が「2」の場合のみ設定します。他の場合は無視します。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(131)EA列：支払-現金支払科目コード

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：現金科目コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(132)EB列：支払-現金支払補助コード

TYPE：文字

有効値：半角2文字以内

説明：科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：補助コードが「A」の場合「A」  
補助コードが「AB」の場合「AB」  
補助コードをセットしない場合「」

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(133)EC列：支払-預金振込科目コード

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(134)ED列：支払-預金振込補助コード

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(135)EE列：支払-自動引落科目コード

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：預金科目コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(136)EF列：支払-自動引落補助コード

TYPE：文字

有効値：半角2文字以内

説明：科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例：補助コードが「A」の場合「A」  
補助コードが「AB」の場合「AB」  
補助コードをセットしない場合「」

注意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(137)EG列：支払-手形振出科目コード

TYPE：数値

有効値 : 1000～9999

説明 : 支払手形の科目コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意 : F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(138)EH列 : 支払-手形振出補助コード

TYPE : 文字

有効値 : 半角 2 文字以内

説明 : 科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例 : 補助コードが「A」の場合「A」  
補助コードが「AB」の場合「AB」  
補助コードをセットしない場合「」

注意 : F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(139)EI列 : 支払-電債振出科目コード

TYPE : 数値

有効値 : 1000～9999

説明 : 電子記録債務振出の科目コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意 : F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(140)EJ列 : 支払-電債振出補助コード

TYPE : 文字

有効値 : 半角 2 文字以内

説明 : 科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例 : 補助コードが「A」の場合「A」  
補助コードが「AB」の場合「AB」  
補助コードをセットしない場合「」

注意 : F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(141)EK列 : 支払-電債譲渡科目コード

TYPE : 数値

有効値 : 1000～9999

説明 : 電子記録債務譲渡の科目コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

注意 : F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(142)EL列 : 支払-電債譲渡補助コード

TYPE : 文字

有効値 : 半角 2 文字以内

説 明 : 科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットします。但し、「支払-主たる約定に従うか」が「1」の場合は無視されます。

例 : 補助コードが「A」の場合「A」  
補助コードが「AB」の場合「AB」  
補助コードをセットしない場合「」

注 意 : F X 2 クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(143)EM列 : 支払-主たる約定の振込元口座に従うか

T Y P E : 数値

有 効 値 : 「0」(個別に指定)、「1」(主たる約定に従う)のいずれかをセットします。省略した場合は「1」で読み込まれます。

注 意 : F X 2 クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(144)EN列 : 支払-振込元口座-金融機関コード

T Y P E : 数値

有効値 : 0000~9999

説 明 : 振込元の口座の銀行コードをセットします。ただし、「支払-主たる約定の振込元口座に従うか」が「1」の場合は無視されます。また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。

- ①未登録のコードがセットされた場合
- ②振込元銀行コード、振込元支店コード、振込元預金種目、振込元口座番号の組合せがF X 2 クラウドの自社銀行口座として登録されていない場合

注 意 : F X 2 クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(145)E0列 : 支払-振込元口座-支店コード

T Y P E : 数値

有 効 値 : 000~999

説 明 : 振込元の口座の支店コードをセットします。ただし、「支払-主たる約定の振込元口座に従うか」が「1」の場合は無視されます。また、振込元銀行コード、振込元支店コード、振込元預金種目、振込元口座番号の組合せがF X 2 クラウドの自社銀行口座として登録されていない場合は、エラーとなります。

(146)EP列 : 支払-振込元口座-預金種目

T Y P E : 数値

有 効 値 : 「1」(当座預金)、「2」(普通預金)、「3」(貯蓄預金)、「9」(その他)いずれかをセットします。ただし、「支払-主たる約定の振込元口座に従うか」が「1」の場合は無視されます。また、振込元銀行コード、振込元支店コード、振込元預金種目、振込元口座番号の組合せがF X 2 クラウドの自社銀行口座として登録されていない場合は、エラーとなります。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(147)EQ列：支払-振込元口座-口座番号

T Y P E：数値

有効値：0000000～9999999

説 明：振込元の口座の口座番号をセットします。ただし、「支払-主たる約定の振込元口座に従うか」が「1」の場合は無視されます。また、振込元銀行コード、振込元支店コード、振込元預金種目、振込元口座番号の組合せがF X 2クラウドの自社銀行口座として登録されていない場合は、エラーとなります。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(148)ER列：支払-振込先口座1-金融機関コード

T Y P E：数値

有効値：0000～9999

説 明：振込元の口座の銀行コードをセットします。省略時は0とします。  
また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。

①未登録のコードがセットされた場合

②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(149)ES列：支払-振込先口座1-金融機関名

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(150)ET列：支払-振込先口座1-金融機関名が

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(151)EU列：支払-振込先口座1-支店コード

T Y P E：数値

有効値：000～999

説 明：振込先の口座の支店コードをセットします。省略時は0とします。  
また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。

①未登録のコードがセットされた場合

②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(152)EV列：支払-振込先口座1-支店名

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(153)EW列：支払-振込先口座1-支店名が

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(154)EX列：支払-振込先口座1-預金種目

T Y P E：数値

有効値：「1」（当座預金）、「2」（普通預金）、「3」（貯蓄預金）、「9」（その他）いずれか

をセットします。省略時は0とします。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(155)EY列：支払-振込先口座1-口座番号

T Y P E：数値

有効値：0000000～9999999

説 明：振込元の口座の口座番号をセットします。省略時は0とします。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(156)EZ列：支払-振込先口座1-口座名義

T Y P E：文字

有効値：全角16文字（半角32文字）以内

説 明：振込先の口座名義をセットします。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(157)FA列：支払-振込先口座1-口座名義か

T Y P E：文字

有効値：半角40文字以内

説 明：振込先の口座名義のカナをセットします。

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(158)FB列：支払-振込先口座2-金融機関コード

T Y P E：数値

有効値：0000～9999

説 明：振込元の口座の銀行コードをセットします。省略時は0とします。

また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。

①未登録のコードがセットされた場合

②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合

注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

(159)FC列：支払-振込先口座2-金融機関名

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(160)FD列：支払-振込先口座2-金融機関名か

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(161)FE列：支払-振込先口座2-支店コード

T Y P E：数値

有効値：000～999

説 明：振込先の口座の支店コードをセットします。省略時は0とします。

また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。

①未登録のコードがセットされた場合

②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合

- 注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (162)FF列：支払-振込先口座2-支店名  
説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (163)FG列：支払-振込先口座2-支店名カ  
説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (164)FH列：支払-振込先口座2-預金種目  
T Y P E：数値  
有 効 値：「1」（当座預金）、「2」（普通預金）、「3」（貯蓄預金）、「9」（その他）いずれかをセットします。省略時は0とします。  
注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (165)FI列：支払-振込先口座2-口座番号  
T Y P E：数値  
有 効 値：0000000～9999999  
説 明：振込元の口座の口座番号をセットします。省略時は0とします。  
注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (166)FJ列：支払-振込先口座2-口座名義  
T Y P E：文字  
有 効 値：全角16文字（半角32文字）以内  
説 明：振込先の口座名義をセットします。  
注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (167)FK列：支払-振込先口座2-口座名義カ  
T Y P E：文字  
有 効 値：半角40文字以内  
説 明：振込先の口座名義のカナをセットします。  
注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (168)FL列：支払-振込先口座3-金融機関コード  
T Y P E：数値  
有 効 値：0000～9999  
説 明：振込元の口座の銀行コードをセットします。省略時は0とします。  
また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。  
①未登録のコードがセットされた場合  
②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合  
注 意：F X 2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (169)FM列：支払-振込先口座3-金融機関名  
説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (170)FN列：支払-振込先口座3-金融機関名カ

- 説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (171)F0列：支払-振込先口座3-支店コード
- TYPE：数値
- 有効値：000～999
- 説 明：振込先の口座の支店コードをセットします。省略時は0とします。  
また、以下のいずれかに該当する場合はエラーとなります。
- ①未登録のコードがセットされた場合
- ②振込先金融機関コード、振込先支店コードの組合せが存在しない場合
- 注 意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (172)FP列：支払-振込先口座3-支店名
- 説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (173)FQ列：支払-振込先口座3-支店名カナ
- 説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。
- (174)FR列：支払-振込先口座3-預金種目
- TYPE：数値
- 有効値：「1」（当座預金）、「2」（普通預金）、「3」（貯蓄預金）、「9」（その他）いずれかをセットします。省略時は0とします。
- 注 意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (175)FS列：支払-振込先口座3-口座番号
- TYPE：数値
- 有効値：0000000～9999999
- 説 明：振込元の口座の口座番号をセットします。省略時は0とします。
- 注 意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (176)FT列：支払-振込先口座3-口座名義
- TYPE：文字
- 有効値：全角16文字（半角32文字）以内
- 説 明：振込先の口座名義をセットします。
- 注 意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。
- (177)FU列：支払-振込先口座3-口座名義カナ
- TYPE：文字
- 有効値：半角40文字以内
- 説 明：振込先の口座名義のカナをセットします。
- 注 意：FX2クラウド以外のシステムの場合は何をセットしても無視されます。

## 2. 商品情報ファイル読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[商品]の[CSV読み込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記「データレイアウト」の「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(商品コード, 商品名…)

<2 行目～：商品情報部>

(1) A列：商品コード(\*)

TYPE：文字

桁数：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(2) B列：商品名

TYPE：文字

桁数：全角40文字（半角80文字）以内

説明：商品名をセットします。

(3) C列：フリガナ

TYPE：文字

桁数：全角40文字（半角80文字）以内

説明：商品のフリガナをセットします。

(4) D列：表示順

TYPE：数値

有効値：1～9999999

説明：商品一覧画面に表示する順番をセットします。

(5) E列：規格

TYPE : 文字

桁数 : 全角10文字 (半角20文字) 以内

説明 : 商品規格をセットします。

(6) F列 : 単位

TYPE : 文字

桁数 : 全角3文字 (半角6文字) 以内

説明 : 「単位」メニューで登録されている単位をセットします。

(7) G列 : 仕入取引-主たる仕入先

TYPE : 数値

有効値 : 1~999999 (ただし、先頭にゼロを含む6桁の形式「000001」なども許容する)

説明 : 主たる仕入先の取引先コードをセットします。

入力値は内部的に数値として扱いますが、画面上は先頭にゼロを含む6桁の形式で表示されます (例: 1 → 000001, 123 → 000123)。

(8) H列 : 仕入取引-課否区分(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 「1」(課税)、「2」(非課税)、「3」(不課税)いずれかをセットします。

説明 : 仕入取引の課否区分をセットします。

(9) I列 : 仕入取引-税率を日付判定するか

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(日付判定しない)、「1」(日付判定する)いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明 : 消費税率を日付判定するか否かをセットします。

(10) J列 : 仕入取引-税率(\*)

TYPE : 数値

桁数 : 0~99.99

説明 : 仕入にかかる消費税率をセットします。ただし、「仕入取引-税率を日付判定するか」が「1」の場合、当項目は無視されます。

(11) K列 : 仕入取引-軽減税率か

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(標準税率)、「1」(軽減税率)いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明 : 仕入取引税率が軽減税率か否かをセットします。

(12) L列 : 仕入取引-課税・非課税売上に共通の課税仕入に該当する商品か

TYPE : 数値

有効値：「0」（課税・非課税売上に共通の課税仕入に該当しない）、「1」（課税・非課税売上に共通の課税仕入に該当する）いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：課税・非課税売上に共通の課税仕入に該当するか否かをセットします

(13)M列：仕入取引-取引区分(\*)

TYPE：文字

桁数：全角4文字（半角8文字）以内

説明：「取引区分」メニューの仕入取引タブで登録済みの取引区分をセットします。

(14)N列：仕入取引-単価の小数入力桁数(\*)

TYPE：数値

有効値：「0」（小数なし）、「1」（1桁）、「2」（2桁）、「3」（3桁）、「4」（4桁）いずれかをセットします。

説明：仕入取引単価に入力可能とする小数桁数をセットします。

(15)O列：仕入取引-数量の小数入力桁数(\*)

TYPE：数値

有効値：「0」（小数なし）、「1」（1桁）、「2」（2桁）、「3」（3桁）、「4」（4桁）いずれかをセットします。

説明：仕入取引数量に入力可能とする小数桁数をセットします。

(16)P列：仕入取引-税抜き仕入単価

TYPE：数値

桁数：0~999999999（ただし、「仕入取引-単価の小数入力桁数」が「0」（小数なし）以外の場合は「0~9999999.9999」）

説明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(17)Q列：仕入取引-税込み仕入単価

TYPE：数値

桁数：0~999999999（ただし、「仕入取引-単価の小数入力桁数」が「0」（小数なし）以外の場合は「0~9999999.9999」）

説明：税込み仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(18)R列：売上取引-課否区分(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（課税）、「2」（非課税）、「3」（不課税）いずれかをセットします。

説明：売上取引の課否区分をセットします。

(19)S列：売上取引-税率を日付判定するか

TYPE：数値

有効値：「0」（日付判定しない）、「1」（日付判定する）いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：消費税率を日付判定するか否かをセットします。

(20)T列：売上取引-税率(\*)

TYPE：数値

桁数：0～99.99

説明：売上にかかる消費税率をセットします。ただし、「売上取引-税率を日付判定するか」が「1」の場合、当項目は無視されます。

(21)U列：売上取引-軽減税率か

TYPE：数値

有効値：「0」（標準税率）、「1」（軽減税率）いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：売上取引税率が軽減税率か否かをセットします。

(22)V列：売上取引-税込み単価固定で取引する商品か

TYPE：数値

有効値：「0」（通常商品）、「1」（税込み単価固定で取引する商品）いずれかをセットします。省略した場合は「0」で読み込まれます。

説明：税込み単価固定で取引する商品か否かをセットします。

(23)W列：売上取引-取引区分(\*)

TYPE：文字

桁数：全角4文字（半角8文字）以内

説明：「取引区分」メニューの売上取引タブで登録済みの取引区分をセットします。

(24)X列：売上取引-得意先の事業区分の設定に従うか(\*)

TYPE：数値

有効値：「0」（個別に設定）、「1」（得意先の設定に従う）いずれかをセットします。

説明：商品ごとに事業区分を設定するか、得意先の設定に従うかをセットします。

(25)Y列：売上取引-事業区分(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（卸売り分）、「2」（小売り分）、「3」（製造建設）、「4」（その他）、「5」（サービス等）、「6」（不動産）いずれかをセットします。ただし「売上取引-得意先の事業区分の設定に従うか」に「1」（得意先の設定に従う）をセットする場合、当項目には「0」をセットします。

説明：商品ごとの事業区分をセットします。

(26)Z列：売上取引-単価の小数入力桁数(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(小数なし)、「1」(1桁)、「2」(2桁)、「3」(3桁)、「4」(4桁)いずれかをセットします。

説明 : 売上取引単価に入力可能とする小数桁数をセットします。

(27)AA列 : 売上取引-数量の小数入力桁数(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(小数なし)、「1」(1桁)、「2」(2桁)、「3」(3桁)、「4」(4桁)いずれかをセットします。

説明 : 売上取引数量に入力可能とする小数桁数をセットします。

(28)AB列 : 売上取引-源泉所得税の計算区分(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 「0」(対象外)「1」(対象1 : 報酬等×10.21%(100万円超20.42%))「2」(対象2 : (報酬等-10,000)×10.21%) いずれかをセットします。

説明 : 源泉所得税の計算区分をセットします。

(29)AC列 : 売上取引-税抜き売上単価1

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(30)AD列 : 売上取引-税込み売上単価1

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(31)AE列 : 売上取引-備考1

TYPE : 文字

桁数 : 全角13文字 (半角26文字) 以内

説明 : 売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(32)AF列 : 売上取引-税抜き売上単価2

TYPE : 数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(33)AG列：売上取引-税込み売上単価2

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(34)AH列：売上取引-備考2

T Y P E：文字

桁 数：全角13文字（半角26文字）以内

説 明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(35)AI列：売上取引-税抜き売上単価3

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(36)AJ列：売上取引-税込み売上単価3

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(37)AK列：売上取引-備考3

T Y P E：文字

桁 数：全角13文字（半角26文字）以内

説 明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(38)AL列：売上取引-税抜き売上単価4

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際4、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(39)AM列：売上取引-税込み売上単価4

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(40)AN列：売上取引-備考4

T Y P E：文字

桁 数：全角13文字（半角26文字）以内

説 明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(41)A0列：売上取引-税抜き売上単価5

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(42)AP列：売上取引-税込み売上単価5

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(43)AQ列：売上取引-備考5

T Y P E：文字

桁 数：全角13文字（半角26文字）以内

説明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(44)AR列：売上取引-税抜き売上単価6

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(45)AS列：売上取引-税込み売上単価6

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(46)AT列：売上取引-備考6

TYPE：文字

桁数：全角13文字（半角26文字）以内

説明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(47)AU列：売上取引-税抜き売上単価7

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(48)AV列：売上取引-税込み売上単価7

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(49)AW列：売上取引-備考7

TYPE : 文字

桁数 : 全角13文字 (半角26文字) 以内

説明 : 売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(50)AX列 : 売上取引-税抜き売上単価8

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(51)AY列 : 売上取引-税込み売上単価8

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(52)AZ列 : 売上取引-備考8

TYPE : 文字

桁数 : 全角13文字 (半角26文字) 以内

説明 : 売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(53)BA列 : 売上取引-税抜き売上単価9

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(54)BB列 : 売上取引-税込み売上単価9

TYPE : 数値

桁数 : 0~999999999 (ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(55)BC列：売上取引-備考9

TYPE：文字

桁数：全角13文字（半角26文字）以内

説明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(56)BD列：売上取引-税抜き売上単価10

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税抜き仕入単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(57)BE列：売上取引-税込み売上単価10

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「仕入取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：税込み売上単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「仕入単価」欄に初期表示されます。

(58)BF列：売上取引-備考10

TYPE：文字

桁数：全角13文字（半角26文字）以内

説明：売上単価1に関する説明が必要な場合はセットします。見積書、売上傳票の作成時に、売上単価を入力する際に、売上単価の横に表示されます。

(59)BG列：電気通信利用役務・特定役務の提供に該当するか(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（該当する）、「0」（該当しない）いずれかをセットします。

説明：「電気通信利用役務」「特定役務」の提供に該当するか否かを指定します。

(60)BH列：入数

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「仕入取引-数量の小数入力桁数」または「売上取引-数量の小数入力桁数」のいずれかが「0」（小数なし）以外の場合は「0～999999.9999」）

説 明：商品入数をセットします。セットすると見積書、売上・仕入伝票の作成時に「入数」欄に初期表示されます。

(61)BI列：在庫管理-在庫管理するか(\*)

T Y P E：数値

有 効 値：「1」（する）、「0」（しない）いずれかをセットします。

説 明：商品の在庫管理を行うか否かを指定します。

(62)BJ列：在庫管理-適正在庫数のチェックをするか(\*)

T Y P E：数値

有 効 値：「1」（する）、「0」（しない）いずれかをセットします。

説 明：売上・仕入伝票の作成時に、在庫数が適正在庫数の範囲から外れているかをチェックするか否かを指定します。

「在庫管理-在庫管理するか」の設定を「しない」としている場合は当項目で「0」（しない）を設定する必要があります。

(63)BH列：適正在庫数下限

T Y P E：数値

桁 数：0～99999999（ただし、「仕入取引-数量の小数入力桁数」または「売上取引-数量の小数入力桁数」のいずれかが「0」（小数なし）以外の場合は「0～9999999.9999」)

説 明：適正在庫数の下限をセットします。ただし、「在庫管理-適正在庫数のチェックをするか」が「0」の場合、当項目は無視されます。

(63)BH列：適正在庫数上限

T Y P E：数値

桁 数：0～99999999（ただし、「仕入取引-数量の小数入力桁数」または「売上取引-数量の小数入力桁数」のいずれかが「0」（小数なし）以外の場合は「0～9999999.9999」)

説 明：適正在庫数の上限をセットします。ただし、「在庫管理-適正在庫数のチェックをするか」が「0」の場合、当項目は無視されます。

### 3. 手形情報ファイル読込データレイアウト

当データレイアウトは、[手形・電子記録債権管理]－[手形の登録]－[開始時：手形登録]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記「データレイアウト」の「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。  
    <例1> 2005-08-01→8月1日  
    <例2> 0001→1
- ▶ 決済された手形は読み込みません。

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。  
(手形種類, 勘定科目コード…)

<2 行目～：手形情報部>

(1) A列：手形種類(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（受取手形）、「2」（支払手形）のいずれかをセットします。

説明：受取手形、支払手形のいずれかをセットします。

(2) B列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：「受取手形」「支払手形」いずれかの手形管理科目をセットします。

(3) C列：補助コード(\*)

TYPE：文字

桁数：半角2文字以内

説明：手形管理科目を口座別管理している場合は必須項目です。補助コードをセットします。

(4) D列：手形期日(\*)

TYPE：日付

説明：手形期日を西暦でセットします。

例 : 令和4年6月5日 = 2022/06/05

(5) E列: 手形番号

TYPE: 文字

桁数: 半角8文字以内

説明: 手形番号をセットします。

(6) F列: 手形金額(\*)

TYPE: 数値

桁数: 1~999999999

説明: 手形金額をセットします。

(7) G列: 受入日・振出日

TYPE: 日付

説明: 受取手形の場合は受入日、支払手形の場合は振出日をそれぞれ西暦でセットします。

例 : 令和4年6月5日 = 2022/06/05

(8) H列: 振出人(支払人)・受取人(取引先コード)

TYPE: 数値

有効値: 1~999999

説明: 受取手形の場合は振出人(為替手形の場合は支払人)、支払手形の場合は受取人の取引先コードをそれぞれセットします。

(9) I列: 振出人(支払人)・受取人(取引先名)

TYPE: 文字

有効値: 全角16文字(半角32文字)以内

説明: 受取手形の場合は振出人(為替手形の場合は支払人)、支払手形の場合は受取人の名称をそれぞれセットします。「振出人(支払人)・受取人(取引先コード)」が空欄の場合に読み込まれます。

注意: 全角16文字(半角32文字)を超過した分は切り捨てられます。

(10) J列: 裏書人・振出人(取引先コード)

TYPE: 数値

有効値: 1~999999

説明: 受取手形の場合は裏書人、支払手形の場合は振出人の取引先コードをそれぞれセットします。

(11) K列: 裏書人・振出人(取引先名)

TYPE: 文字

有効値: 全角16文字(半角32文字)以内

説明: 受取手形の場合は裏書人、支払手形の場合は振出人の名称をそれぞれセットします。「裏書人・振出人(取引先コード)」が空欄の場合に読み込まれます。

注 意：全角16文字（半角32文字）を超過した分は切り捨てられます。

(12)L列：支払場所（金融機関コード）（＊）

T Y P E：数値

有効値：0000～9999

説 明：支払場所の金融機関コードをセットします。

支払手形の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口座の金融機関コードをセットします。

受取手形の場合に省略する時は0とします。

(13)M列：支払場所（金融機関名）

T Y P E：文字

有効値：全角15文字（半角30文字）以内

説 明：支払場所の金融機関名をセットします。「支払場所（金融機関コード）」に値がセットされている場合は無視されます。

(14)N列：支払場所（支店コード）（＊）

T Y P E：数値

有効値：000～999

説 明：支払場所の支店コードをセットします。

支払手形の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口座の支店コードをセットします。

受取手形の場合に省略する時は0とします。

(15)O列：支払場所（支店名）

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(16)P列：預金種目（＊）

T Y P E：数値

有効値：「1」（当座預金）、「2」（普通預金）、「3」（貯蓄預金）、「9」（その他）のいずれかをセットします。

説 明：支払場所の預金種目をセットします。支払手形の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口座の預金種目をセットします。

受取手形の場合は空欄をセットします。

(17)Q列：口座番号（＊）

T Y P E：数値

有効値：0000000～9999999

説 明：支払場所の口座番号をセットします。支払手形の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口座の口座番号をセットします。

受取手形の場合は空欄をセットします。

(18)R列：決済日

TYPE：日付

説明：空欄をセットします。

注意：当項目に日付がセットされている場合、決済済みの手形とみなされ読み込まれません。

(19)S列：手形区分(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」(手持手形)、「2」(割引手形)、「3」(裏書手形)、「4」(不渡手形)、「5」(取立依頼手形)のいずれかをセットします。

説明：受取手形の場合は必須項目です。手形の顛末情報をセットします。  
支払手形の場合は空欄をセットします。

(20)T列：取引日(\*)

TYPE：日付

説明：受取手形で、かつ手形区分が「1」以外の場合は必須項目です。割引、裏書等の顛末情報の取引日をセットします。  
支払手形の場合は空欄をセットします。

(21)U列：裏書先(取引先コード)

TYPE：数値

有効値：1~999999

説明：受取手形で、かつ手形区分が「3」の場合に、裏書先となる取引先コードをセットします。  
手形区分が「3」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

(22)V列：裏書先(取引先名)

TYPE：文字

有効値：全角16文字(半角32文字)以内

説明：受取手形で、かつ手形区分が「3」の場合に裏書先の名称をセットします。「裏書先(取引先コード)」が空欄の場合に読み込まれます。  
手形区分が「3」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

注意：全角16文字(半角32文字)を超過した分は切り捨てられます。

(23)W列：割引・取立依頼銀行(金融機関コード)(\*)

TYPE：数値

有効値：0000~9999

説明：割引・取立依頼銀行の金融機関コードをセットします。  
受取手形で、かつ手形区分が「2」または「5」の場合は必須項目です。  
手形区分が「2」「5」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

(24)X列：割引・取立依頼銀行(金融機関名)

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(25)Y列：割引・取立依頼銀行（支店コード）（＊）

TYPE：数値

有効値：000～999

説明：割引・取立依頼銀行の支店コードをセットします。

受取手形で、かつ手形区分が「2」または「5」の場合は必須項目です。

手形区分が「2」「5」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

(26)Z列：割引・取立依頼銀行（支店名）

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(27)AA列：手形管理科目コード（＊）

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：割引手形・不渡手形を管理する科目コードをセットします。

受取手形で、かつ手形区分が「2」または「4」の場合は必須項目です。

手形区分が「2」「4」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

(28)AB列：手形管理補助コード（＊）

TYPE：文字

桁数：半角2文字以内

説明：割引手形・不渡手形を管理する補助コードをセットします。

受取手形で、かつ手形区分が「2」または「4」の場合、かつ「手形管理科目コード」を口座別管理している場合は必須項目です。

手形区分が「2」「4」以外の場合、また支払手形の場合は空欄をセットします。

#### 4. 電子記録債権情報ファイル読込データレイアウト

当データレイアウトは、[手形・電子記録債権管理]－[電債の登録]－[開始時：電子記録債権登録]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記「データレイアウト」の「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。  
    <例1> 2005-08-01→8月1日  
    <例2> 0001→1
- 決済された電子記録債権は読み込みません。

<1 行目：タイトル部>

1行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(電子記録債権種類, 勘定科目コード…)

<2 行目～：電子記録債権情報部>

(1) A列：電子記録債権種類(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（電子記録債権）、「2」（電子記録債務）のいずれかをセットします。

説明：電子記録債権、電子記録債務いずれかをセットします。

(2) B列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：電子記録債権、電子記録債務いずれかの管理科目コードをセットします。

(3) C列：補助コード(\*)

TYPE：文字

桁数：半角2文字以内

説明：「勘定科目コード」としてセットされた科目を口座別管理している場合は必須項目です。補助コードをセットします。

(4) D列：支払期日(\*)

TYPE：日付

説明：電子記録債権期日を西暦でセットします。

例 : 令和4年6月5日 = 2022/06/05

(5) E列: 電子債権記録番号

TYPE: 文字

桁数: 半角20文字以内

説明: 電子債権記録番号をセットします。

(6) F列: 債権金額(\*)

TYPE: 数値

桁数: 1~999999999

説明: 債権金額をセットします。

(7) G列: 受入日・振出日

TYPE: 日付

説明: 電子記録債権の場合は受入日、電子記録債務の場合は振出日をそれぞれ西暦で  
セットします。

例 : 令和4年6月5日 = 2022/06/05

(8) H列: 振出人(支払人)・受取人(取引先コード)

TYPE: 数値

有効値: 1~999999

説明: 電子記録債権の場合は振出人、電子記録債務の場合は受取人の取引先コードを  
それぞれセットします。

(9) I列: 振出人(支払人)・受取人(取引先名)

TYPE: 文字

有効値: 全角16文字(半角32文字)以内

説明: 電子記録債権の場合は振出人、電子記録債務の場合は受取人の名称をそれぞれ  
セットします。「振出人(支払人)・受取人(取引先コード)」が空欄の場合に読  
み込まれます。

注意: 全角16文字(半角32文字)を超過した分は切り捨てられます。

(10) J列: 譲渡人・振出人(取引先コード)

TYPE: 数値

有効値: 1~999999

説明: 電子記録債権の場合は譲渡人、電子記録債務の場合は振出人の取引先コードを  
それぞれセットします。

(11) K列: 譲渡人・振出人(取引先名)

TYPE: 文字

有効値: 全角16文字(半角32文字)以内

説 明：電子記録債権の場合は譲渡人、電子記録債務の場合は振出人の名称をそれぞれ  
セットします。「譲渡人・振出人（取引先コード）」が空欄の場合に読み込まれ  
ます。

注 意：全角16文字（半角32文字）を超過した分は切り捨てられます。

(12)L列：決済口座（金融機関コード）（\*）

T Y P E：数値

有効値：0000～9999

説 明：支払場所の金融機関コードをセットします。

電子記録債務の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口  
座の金融機関コードをセットします。

電子記録債権の場合に省略する時は0とします。

(13)M列：決済口座（金融機関名）

T Y P E：文字

有効値：全角15文字（半角30文字）以内

説 明：支払場所の金融機関名をセットします。「決済口座（金融機関コード）」に値が  
セットされている場合は無視されます。

(14)N列：決済口座（支店コード）（\*）

T Y P E：数値

有効値：000～999

説 明：支払場所の支店コードをセットします。

電子記録債務の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口  
座の支店コードをセットします。

電子記録債権の場合に省略する時は0とします。

(15)O列：決済口座（支店名）

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(16)P列：預金種目（\*）

T Y P E：数値

有効値：「1」（当座預金）、「2」（普通預金）、「3」（貯蓄預金）、「9」（その他）のいづれ  
かをセットします。

説 明：支払場所の預金種目をセットします。電子記録債務の場合は必須項目です。

自社銀行口座として登録されている口座の預金種目をセットします。

電子記録債権の場合は空欄をセットします。

(17)Q列：口座番号（\*）

T Y P E：数値

有効値：0000000～9999999

説明：支払場所の口座番号をセットします。電子記録債務の場合は必須項目です。自社銀行口座として登録されている口座の口座番号をセットします。  
電子記録債権の場合は空欄をセットします。

(18)R列：電子債権記録期間区分

TYPE：数値

有効値：「1」（でんさい）、「2」（その他）のいずれかをセットします。「でんさい」以外の電子債権記録機関で発生させた電子記録債権の場合は、「2」をセットしてください。省略した場合は「でんさい」で読み込まれます。

(19)S列：譲渡制限

TYPE：数値

有効値：「0」（なし）、「1」（あり）のいずれかをセットします。金融機関のみに譲渡を制限されている場合は、「1」をセットしてください。省略した場合は「なし」で読み込まれます。

(20)T列：決済日

TYPE：日付

説明：空欄をセットします。

注意：当項目に日付がセットされている場合、決済済みの手形とみなされ読み込まれません。

(21)U列：電債区分(\*)

TYPE：数値

有効値：「1」（手持）、「2」（割引）、「3」（譲渡）、「4」（支払不能）、「5」（担保差入）のいずれかをセットします。

説明：電子記録債権の場合は必須項目です。顛末情報をセットします。  
電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(22)V列：取引日(\*)

TYPE：日付

説明：電子記録債権で、かつ電債区分が「1」以外の場合は必須項目です。割引、譲渡等の顛末情報の取引日をセットします。  
電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(23)W列：譲渡先(取引先コード)

TYPE：数値

有効値：1~999999

説明：電子記録債権で、かつ電債区分が「3」の場合に、譲渡先となる取引先コードをセットします。  
電債区分が「3」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(24)X列：譲渡先名(取引先名)

TYPE : 文字

有効値 : 全角16文字 (半角32文字) 以内

説明 : 電子記録債権で、かつ電債区分が「3」の場合に譲渡先の名称をセットします。

「裏書先(取引先コード)」が空欄の場合に読み込まれます。

電債区分が「3」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

注意 : 全角16文字 (半角32文字) を超過した分は切り捨てられます。

(25)Y列 : 割引・担保差入銀行 (金融機関コード) (\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0000~9999

説明 : 割引・担保差入銀行の金融機関コードをセットします。

電子記録債権で、かつ電債区分が「2」または「5」の場合は必須項目です。

電債区分が「2」「5」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(26)Z列 : 割引・担保差入銀行 (金融機関名)

説明 : 予備領域です。何がセットされていても無視します。

(27)AA列 : 割引・担保差入銀行 (支店コード) (\*)

TYPE : 数値

有効値 : 000~999

説明 : 割引・担保差入銀行の支店コードをセットします。

電子記録債権で、かつ電債区分が「2」または「5」の場合は必須項目です。

電債区分が「2」「5」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(28)AB列 : 割引・担保差入銀行 (支店名)

説明 : 予備領域です。何がセットされていても無視します。

(29)AC列 : 電債管理科目コード(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 1000~9999

説明 : 割引電子記録債権・不渡電子記録債権を管理する科目コードをセットします。

電子記録債権で、かつ電債区分が「2」または「4」の場合は必須項目です。

電債区分が「2」「4」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

(30)AD列 : 電債管理補助コード(\*)

TYPE : 文字

桁数 : 半角2文字以内

説明 : 割引電子記録債権・不渡電子記録債権を管理する補助コードをセットします。

電子記録債権で、かつ電債区分が「2」または「4」の場合、かつ「電債管理科

目コード」を口座別管理している場合は必須項目です。  
電債区分が「2」「4」以外の場合、また電子記録債務の場合は空欄をセットします。

## 5. 開始勘定科目残高読込データレイアウト

当データレイアウトは、[財務会計]－[マスター情報]－[開始勘定科目残高]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記「データレイアウト」の「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- 画面で選択されている部門と表示期間の残高として読み込みます。
- 損益計算書科目、製品製造原価科目は「期首からの累計額」として読み込みます。

<1 行目：タイトル部>

- 1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。  
(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：開始勘定科目残高情報部>

- (1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：読込対象とする勘定科目の勘定科目コードをセットします。

注意：FXクラウドシリーズに存在しない勘定科目、自動計算科目(3331、3334、9111、9611)、合計科目(1110等)がセットされている場合はエラーとなります。

- (2) B列：勘定科目名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

- (3) C列：補助コード

TYPE：文字

桁数：半角2文字以内

説明：口座別の残高を登録する場合、登録される補助コードをセットします。

注意：事前に補助コードを登録しておく必要があります。補助コードZ、未登録の補助コードがセットされている場合はエラーとなります。  
科目別の残高の場合は未入力(カンマ区切りのみ)としてください。

- (4) D列：口座名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

- (5) E列：取引先コード

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先別の残高を登録する場合、登録される取引先コードをセットします。  
注意：事前取引先コードを取引先別管理の対象としておく必要があります。  
999999 その他取引先、未登録の取引先コード、管理対象外の取引先コードが  
セットされている場合はエラーとなります。  
科目別の残高の場合は未入力（カンマ区切りのみ）としてください。

(6) F列：取引先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列：残高1

TYPE：数値

桁数：1～999999999999

説明：選択された部門、表示期間の1月目の残高をセットします。

注意：カンマ編集は行わないでください。12桁を超えた残高がセットされている場合はエラーとなります。

(8) H列：残高2

TYPE：数値

桁数：1～999999999999

説明：選択された部門、表示期間の2月目の残高をセットします。

注意：カンマ編集は行わないでください。12桁を超えた残高がセットされている場合はエラーとなります。

・

・

・

(残高3～残高11は記載を省略します)

・

・

・

(18) R列：残高12

TYPE：数値

桁数：1～999999999999

説明：選択された部門、表示期間の12月目の残高をセットします。

注意：カンマ編集は行わないでください。12桁を超えた残高がセットされている場合はエラーとなります。

## 6. 得意先別商品単価(得意先毎)読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[得意先別商品単価(得意先毎)]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(取引先コード, 取引先名…)

<2 行目～：得意先別商品単価情報部>

(1) A列： 取引先コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先コードをセットします。

(2) B列： 得意先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列： 営業所名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列： 商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(5) E列： 商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列： 規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列： 税抜き単価

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：得意先別商品単価の税抜き単価をセットします。セットした場合、見積書、売上传票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「得意先別単価」欄に初期表示されます。

(8) H列：税込み単価

TYPE：数値

桁数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説明：得意先別商品単価の税込み単価をセットします。セットした場合、見積書、売上传票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「得意先別単価」欄に初期表示されます。

## 7. 得意先別商品単価(商品毎)読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[得意先別商品単価(商品毎)]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(取引先コード, 取引先名…)

<2 行目～：得意先別商品単価情報部>

(1) A列：商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(2) B列：商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列：取引先コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先コードをセットします。

(5) E列：得意先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列：営業所名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列： 税抜き単価

TYPE： 数値

桁 数： 0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明： 得意先別商品単価の税抜き単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「外税/納品時」または「外税/請求時」を選択した際に、「得意先別単価」欄に初期表示されます。

(8) H列： 税込み単価

TYPE： 数値

桁 数： 0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明： 得意先別商品単価の税込み単価をセットします。セットした場合、見積書、売上傳票の作成時に、消費税転嫁方式欄で「内税」を選択した際に、「得意先別単価」欄に初期表示されます。

## 8. 売上単価予約読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[売上単価予約]の[C S V読み込み]で読み込むためのものです。同メニューの[C S V切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったC S V形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ C S V形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(商品コード, 商品名…)

<2 行目～：売上単価予約情報部>

(1) A列：商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(2) B列：商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列：行(\*)

TYPE：数値

有効値：半角数字1～10

説明：商品単価の行をセットします。

(5) E列：税抜き単価（現行）

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列：税込み単価（現行）

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列：備考（現行）

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(8) H列：改定予約する（＊）

TYPE：数値

桁 数：0,1

説 明：売上単価の改定を予約する場合は「1」、予約しない場合は「0」をセットします。

(9) I列：税抜き単価（予約）

TYPE：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：売上単価の税抜き単価の改定予約をセットします。

(10) J列：税込み単価（予約）

TYPE：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」）

説 明：売上単価の税込み単価の改定予約をセットします。

(11) K列：備考（予約）

TYPE：文字

桁 数：全角13文字（半角26文字）以内

説 明：売上単価に関する説明が必要な場合はセットします。

## 9. 得意先別商品単価(得意先毎)予約読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[得意先別商品単価(得意先毎)予約]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(取引先コード, 得意先名…)

<2 行目～：得意先別商品単価予約情報部>

(1) A列：取引先コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先コードをセットします。

(2) B列：得意先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：営業所名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列：商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(5) E列：商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列：規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列：税抜き単価(現行)

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(8) H列： 税込み単価(現行)

説 明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(9) I列：改定予約する（＊）

T Y P E：数値

桁 数：0,1

説 明：得意先別商品単価の改定を予約する場合は「1」、予約しない場合は「0」をセットします。

(10) J列： 税抜き単価(予約)

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」)

説 明：得意先別商品単価の税抜き単価の改定予約をセットします。

(11) K列： 税込み単価(予約)

T Y P E：数値

桁 数：0～999999999（ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0～9999999.9999」)

説 明：得意先別商品単価の税込み単価の改定予約をセットします。

## 10. 得意先別商品単価(商品毎)予約読込データレイアウト

当データレイアウトは、[設定(販売・購買)]-[マスター情報]-[得意先別商品単価(商品毎)予約]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(商品コード, 商品名…)

<2 行目～：得意先別商品単価予約情報部>

(1) A列：商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(2) B列：商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列：取引先コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先コードをセットします。

(5) E列：得意先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列：営業所名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列： 税抜き単価(現行)

説 明： 予備領域です。何がセットされていても無視します。

(8) H列： 税込み単価(現行)

説 明： 予備領域です。何がセットされていても無視します。

(9) I列： 改定予約する (\*)

T Y P E： 数値

桁 数： 0, 1

説 明： 得意先別商品単価の改定を予約する場合は「1」、予約しない場合は「0」をセットします。

(10) J列： 税抜き単価(予約)

T Y P E： 数値

桁 数： 0~999999999 (ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説 明： 得意先別商品単価の税抜き単価の改定予約をセットします。

(11) K列： 税込み単価(予約)

T Y P E： 数値

桁 数： 0~999999999 (ただし、「売上取引単価の小数入力」が「小数なし」以外の場合は「0~9999999.9999」)

説 明： 得意先別商品単価の税込み単価の改定予約をセットします。

## 11. 実地棚卸読込データレイアウト

当データレイアウトは、[在庫管理]－[実地棚卸]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(商品コード, 商品組コード…)

<2 行目～：得意先別商品単価予約情報部>

(1) A列：商品コード(\*)

TYPE：数値

有効値：半角16文字以内

説明：商品コードをセットします。

(2) B列：商品組コード

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：商品名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(4) D列：規格

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(5) E列：単位

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(6) F列：帳簿在庫数

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列：実地棚卸数(\*)

TYPE：数値

有効値 : 0~999999999 (ただし、「仕入取引-数量の小数入力桁数」または「売上取引-数量の小数入力桁数」のいずれかが「0」(小数なし)以外の場合は「0~9999999.9999」)

説明 : 実地棚卸数をセットします。

(8) H列 : 差異

説明 : 予備領域です。何がセットされていても無視します。

## 12. 工事読込データレイアウト

当データレイアウトは、[工事原価・実行予算管理]－[工事原価・実行予算の登録]－[工事]の[一括登録]で読み込むためのものです。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(工事番号, 工事正式名…)

<2 行目～：工事情報部>

(1) A列： 工事番号(\*)

TYPE：文字

桁数：半角8文字以内

説明：工事番号をセットします。なお、「99999999」および「Z」は、システムで予約されたコードのため、登録できません。

(2) B列： 工事正式名

TYPE：文字

桁数：全角40文字（半角80文字）以内

説明：工事正式名をセットします。

(3) C列： 工事名

TYPE：文字

桁数：全角20文字（半角40文字）以内

説明：工事名をセットします。

(4) D列： 頭文字

TYPE：文字

桁数：全半角2文字以内

説明：工事の頭文字をセットします。

(5) E列：受注先コード(\*)

TYPE：数値

桁数：1~999998

説明：取引先コードをセットします。

(6) F列：工事の種類番号(\*)

TYPE：数値

桁数：01~99

説明：工事の種類コードをセットします。

(7) G列：都道府県コード

TYPE：数値

桁数：01~47, 98, 99

説明：都道府県コードをセットします。

コード	都道府県	コード	都道府県	コード	都道府県
1	北海道	18	福井県	35	山口県
2	青森県	19	山梨県	36	徳島県
3	岩手県	20	長野県	37	香川県
4	宮城県	21	岐阜県	38	愛媛県
5	秋田県	22	静岡県	39	高知県
6	山形県	23	愛知県	40	福岡県
7	福島県	24	三重県	41	佐賀県
8	茨城県	25	滋賀県	42	長崎県
9	栃木県	26	京都府	43	熊本県
10	群馬県	27	大阪府	44	大分県
11	埼玉県	28	兵庫県	45	宮崎県
12	千葉県	29	奈良県	46	鹿児島県
13	東京都	30	和歌山県	47	沖縄県
14	神奈川県	31	鳥取県	98	国外
15	新潟県	32	島根県	99	住所なし
16	富山県	33	岡山県		
17	石川県	34	広島県		

(8) H列：市区町村

TYPE：文字

桁数：全角12文字（半角24文字）以内

説明：市区町村名をセットします。

(9) I列：住所

TYPE：文字

桁 数：全角20文字（半角40文字）以内  
説 明：市区町村名以降の住所をセットします。

(10)J列： 未成・完成区分

TYPE：数値

有効値：「0」（未成工事）、「1」（完成工事）のいずれかをセットします。省略した場合は「0」（未成工事）で読み込みます。

説 明：未成工事、完成工事のいずれかをセットします。

(11)K列： 収益計上区分

TYPE：数値

有効値：「0」（工事完成基準）、「1」（部分完成基準）、「2」（工事進行基準）のいずれかをセットします。省略した場合は「0」（工事完成基準）で読み込みます。

説 明：収益計上区分をセットします。

(12)L列： 契約日

TYPE：日付

説 明：契約日を西暦でセットします。

例：令和6年10月1日=2022/10/01

(13)M列： 契約着工日(\*)

TYPE：日付

説 明：契約着工日を西暦でセットします。

例：令和6年10月1日=2022/10/01

(14)N列： 契約竣工予定日(\*)

TYPE：日付

説 明：契約竣工予定日を西暦でセットします。

例：令和6年10月1日=2022/10/01

(15)O列： 社内竣工予定日(\*)

TYPE：日付

説 明：社内竣工予定日を西暦でセットします。

例：令和6年10月1日=2022/10/01

(16)P列： 竣工引渡日

TYPE：日付

説 明：竣工引渡日を西暦でセットします。「(9) J列： 未成・完成区分」の値が「1：完成工事」の場合に必須項目です。他の場合は無視します。

例：令和6年10月1日=2022/10/01

(17)Q列： 見積書番号

TYPE：文字

桁 数：半角12文字以内

説 明：見積書の番号をセットします。

(18)R列： 請負金額の契約日

T Y P E：日付

説 明：請負金額の契約日を西暦でセットします。なお、当項目の入力を省略した場合  
でかつ「(12)L列： 契約日」が入力されている場合は、その日付で更新します。

例： 令和 6 年 10 月 1 日=2022/10/01

(19)S列： 税込み請負金額

T Y P E：数値

桁 数：-99999999999~99999999999

説 明：税込み請負金額をセットします。

(20)T列： 税率

T Y P E：数値

桁 数：0~99999

説 明：税率をセットします。なお、8%の場合は「800」、10%の場合は「1000」と指  
定してください。

(21)U列： 消費税額

T Y P E：数値

桁 数：-99999999999~99999999999

説 明：消費税額をセットします。なお、省略した場合は、「(19)S列： 税込み請負金  
額」および「(20)T列： 税率」の値で計算した消費税額で更新します。

(22)V列： 内訳区分の税込み請負金額

T Y P E：数値

桁 数：-99999999999~99999999999

説 明：「うちPC」「うち法面工事」「うち鋼橋上部」分の請負金額をセットします。  
工事関連機能の「建設工事の種類」（土木一式工事、とび・土工・コンクリー  
ト工事、鋼構造物工事）に指定されている工事の種類が、「(6)F列： 工事の  
種類番号」にセットされている場合は必須項目です。それ以外は無視します。

(23)W列： 内訳区分の税率

T Y P E：数値

桁 数：0~99999

説 明：「うちPC」「うち法面工事」「うち鋼橋上部」分の税率をセットします。工事  
関連機能の「建設工事の種類」（土木一式工事、とび・土工・コンクリート工  
事、鋼構造物工事）に指定されている工事の種類が、「(6)F列： 工事の種類  
番号」にセットされている場合は必須項目です。それ以外は無視します。

(24)X列： 内訳区分の消費税額

T Y P E：数値

桁 数：-999999999999~99999999999

説 明：「うちPC」、「うち法面工事」、「うち鋼橋上部」分の消費税額をセットします。  
工事関連機能の「建設工事の種類」（土木一式工事、とび・土工・コンクリート工事、鋼構造物工事）に指定されている工事の種類が、「(6) F列： 工事の種類番号」にセットされている工事の種類の場合は必須項目です。それ以外は無視します。  
なお、当欄を省略した場合は、「(22)V列： 内訳区分の税込み請負金額」「(23)W列： 内訳区分の税率」の値で計算した消費税額で更新します。

(25)Y列： 部門コード

TYPE： 数値

桁 数： 0~998

説 明：部門コードをセットします。なお、部門管理する設定の場合は必須項目です。

(26)Z列： 担当者コード

TYPE： 数値

桁 数： 1~9999999

説 明：社員マスターに登録済みの社員コードをセットします。なお、当欄のコードはシステム上の「担当者1」として更新されます。

(27)AA列： 主任技術者区分

TYPE： 数値

有効値：「0」（主任技術者でない）、「1」（主任技術者である）のいずれかをセットします。「(26)Z列： 担当者コード」がセットされていない場合は無視します。

説 明：主任技術者区分をセットします。なお、当欄の値はシステム上の「担当者1」の情報として更新されます。

(28)AB列： 監理技術者区分

TYPE： 数値

有効値：「0」（監理技術者でない）、「1」（監理技術者である）のいずれかをセットします。「(26)Z列： 担当者コード」がセットされていない場合は無視します。

説 明：監理技術者区分をセットします。なお、当欄の値はシステム上の「担当者1」の情報として更新されます。

(29)AC列： 配賦グループコード(\*)

TYPE： 文字

桁 数： 半角8文字以内

説 明：間接工事費配賦グループマスターに登録済みの配賦グループコードをセットします。

(30)AD列： 売上計上科目コード

TYPE： 数値

有効値：科目体系に応じて、以下のいずれかの科目コードをセットします。

財務三表	建設業会計
4111	4111
4112	4112
4113	4121
4114	4122

説明：売上計上科目コードをセットします。なお、省略した場合は「4111」で更新します。

(31)AE列：売上計上補助科目コード

TYPE：文字

桁数：半角2文字以内

説明：「(30)AD列：売上計上科目コード」の科目が口座別管理されている場合は必須項目です。それ以外は無視します。

(32)AF列：課税区分コード

TYPE：文字

有効値：「0」（不課税取引）、「1」（課税売上）、「2」（輸出（課税））のいずれかをセットします。

説明：課税区分をセットします。

(33)AG列：事業区分コード

TYPE：数字

有効値：「1」（第1種事業（卸売り分））、「2」（第2種事業（小売り分））、「3」（第3種事業（製造建設））、「4」（第4種事業（その他））、「5」（第5種事業（サービス等））、「6」（第6種事業（不動産））のいずれかをセットします。

説明：事業区分をセットします。なお、「(32)AF列：課税区分コード」に「2：輸出（課税）」、「0：不課税取引」が入力されている場合は無視します。

(34)AH列：販管費等仮配賦対象区分

TYPE：数字

有効値：「0」（販管費等の仮配賦の対象としない）、「1」（販管費等の仮配賦の対象とする）のいずれかをセットします。

説明：販管費等仮配賦対象区分をセットします。なお、工事関連機能設定の「販管費等の仮配賦」の設定が「利用する」かつ入力を省略した場合は、「0」で更新します。また、工事関連機能設定の「販管費等の仮配賦」の設定が「利用しない」の場合は無視します。

### 13. 勘定科目情報読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[勘定科目]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：勘定科目情報部>

(1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：勘定科目コードをセットします。

(2) B列：勘定科目名

TYPE：文字

有効値：全角12文字

※次のシステムは、全角16文字

MX2クラウド、FX2公益法人会計クラウド

説明：勘定科目名をセットします。

(3) C列：フリガナ

TYPE：文字

有効値：全角25文字 (半角50文字)

説明：勘定科目名のフリガナをセットします。

(4) D列：口座別管理(\*)

TYPE：数値

有効値：0,1

- 説 明：口座別管理する場合は「1」をセットします。
- (5) E列：取引先別管理(\*)
- 有 効 値：0,1
- 説 明：取引先別管理する場合は「1」をセットします。
- (6) F列：資金
- T Y P E：数値
- 有 効 値：0,1
- 説 明：資金繰り科目（流動性預金）とする場合は「1」をセットします。
- (7) G列：未成工事支出金の集計先（DAIC2クラウドのみ）
- T Y P E：数値
- 有 効 値：「0」（非表示）、「1」（材料費計）、「2」（労務費計）、「3」（外注費計）、「4」（仮設経費小計）、「5」（機械等経費小計）、「6」（経費計）のいずれかをセットします。
- 説 明：未成工事支出金の集計先をセットします。
- (7) G列：外入区分（\*）（MX2クラウドのみ）
- T Y P E：数値
- 有 効 値：「0」（非表示）、「1」（外来収益）、「2」（入院収益）、「3」（その他医業収益）のいずれかをセットします。
- 説 明：損益計算書タブの科目について、外入区分をセットします。
- (8) H列：保自区分（\*）（MX2クラウドのみ）
- T Y P E：数値
- 有 効 値：「0」（非表示）、「1」（保険診療収入）、「2」（自由診療収入）のいずれかをセットします。
- 説 明：損益計算書タブの収益科目について、保自区分をセットします。
- (9) I列：保自区分（経費）（\*）（MX2クラウドのみ）
- T Y P E：数値
- 有 効 値：「0」（非表示）、「1」（保険診療の直接経費）、「2」（自由診療の直接経費）、「3」（共通経費）のいずれかをセットします。
- 説 明：損益計算書タブの費用科目について、保自区分をセットします。
- (10) J列：集計先（MX2クラウドのみ）
- T Y P E：数値
- 有 効 値：「0」、「1」（事業外損益科目の残高を事業損益の部に計上する）
- 説 明：医療法人会計基準を適用する医療法人で、[医療法人会計基準の運用指針18](#)に基づき、事業報告書等（損益計算書）で、事業外損益科目（7112～7119、7512～7519の残高）を、事業損益の部に計上する場合に「1」をセットしてください

い。なお、事業外損益科目（7112～7119、7512～7519）以外の科目では、CS  
Vにセットされている値にかかわらず「0」で読み込みます。

## 14. 口座別管理科目情報読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[勘定科目]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：口座別管理科目情報部>

(1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：勘定科目コードをセットします。

(2) B列：勘定科目名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：補助コード(\*)

有効値：半角2文字以内

説明：補助コードをセットします。

(4) D列：口座名

TYPE：文字

有効値：全角20文字

説明：口座名をセットします。

(5) E列：フリガナ

TYPE：文字

有効値：全角20文字(半角50文字)

説明：口座名のフリガナをセットします。

## 15. 取引先別管理科目情報読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[勘定科目]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：取引先別管理科目情報部>

(1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：勘定科目コードをセットします。

(2) B列：勘定科目名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：取引先コード(\*)

有効値：半角数字6文字

説明：取引先コードをセットします。

(4) D列：取引先名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

## 16. 資金相手科目情報読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[資金相手科目]の[C S V読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[C S V切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったC S V形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ C S V形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：資金相手科目情報部>

(1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：勘定科目コードをセットします。

(2) B列：勘定科目名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：補助コード

有効値：半角2文字以内

説明：補助コードをセットします。

(4) D列：口座名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(5) E列：借方収支区分コード

TYPE：数値

有効値：01, 02, 03, 04, 05, 06, 07

説明：借方収支区分コードをセットします。

(6) F列：借方収支区分名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(7) G列：借方内訳区分コード

有効値：半角数字2文字

説明：借方内訳区分コードをセットします。

(8) H列：借方内訳区分名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(9) I列：貸方収支区分コード

TYPE：数値

有効値：01, 02, 03, 04, 05, 06, 07

説明：貸方収支区分コードをセットします。

(10) J列：貸方収支区分名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(11) K列：貸方内訳区分コード

有効値：半角数字2文字

説明：貸方内訳区分コードをセットします。

(12) L列：貸方内訳区分名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

## 17. 内訳区分情報読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[資金相手科目]－[内訳区分]の[CSV読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[CSV切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったCSV形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- ▶ 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- ▶ 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- ▶ CSV形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(収支区分コード, 収支区分名…)

<2 行目～：内訳区分情報部>

(1) A列：収支区分コード(\*)

TYPE：数値

有効値：01, 02, 03, 04, 05, 06, 07

説明：収支区分コードをセットします。

(2) B列：収支区分名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：内訳区分コード(\*)

有効値：半角数字2文字

説明：内訳区分コードをセットします。

(4) D列：内訳区分名

TYPE：文字

有効値：全角8文字（半角16文字）

説明：内訳区分名をセットします。

## 18. 科目別課税区分読込データレイアウト

当データレイアウトは、「導入・運用支援」メニューの[財務会計]－[勘定科目情報]－[科目別課税区分]の[C S V読込み]で読み込むためのものです。同メニューの[C S V切出し]で切り出したテキストファイルと同一形式です。

ファイル形式は、項目をカンマ文字で区切ったC S V形式です。ファイル名は拡張子を含め指定はありません。

- 1行目はタイトル部となります。下記データレイアウトの「項目名」をセットしてください。
- 項目名の右側に“(\*)”が付いている項目は必須項目です。
- C S V形式のデータはExcelにて編集できます。但し、Excelの設定によって、文字項目が自動的に年月日等に置き換わってしまう場合がありますので、ご注意ください。

<例1> 2005-08-01→8月1日

<例2> 0001→1

<1 行目：タイトル部>

1 行目はタイトル部となります。下記レイアウト内の項目名をセットします。

(勘定科目コード, 勘定科目名…)

<2 行目～：科目別課税区分情報部>

(1) A列：勘定科目コード(\*)

TYPE：数値

有効値：1000～9999

説明：勘定科目コードをセットします。

(2) B列：勘定科目名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(3) C列：補助コード

TYPE：文字

有効値：半角2文字以内

説明：科目を口座別管理している場合は科目の補助コードをセットできます。口座別管理している科目で補助コードを省略した場合は勘定科目の設定となります。

例：補助コードが「A」の場合「A」

補助コードが「01」の場合「01」

補助コードをセットしない場合「」

(4) D列：口座名

説明：予備領域です。何がセットされていても無視します。

(5) E列：取引内容

TYPE : 文字

有効値 : 全角 40 文字(半角 80 文字)以内

説明 : 取引内容をセットします。

(6) F列 : 元帳摘要に複写するか否か(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0, 1

説明 : 元帳摘要に取引内容を複写する場合は「1」、複写しない場合は「0」をセットします。

(7) G列 : 課税区分(\*)

TYPE : 数字

有効値 : 半角 2 文字以内

説明 : 課税区分をセットします。

(8) H列 : 税率(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0~99999

説明 : 税外取引の場合は 0 をセットしてください。

例 : 8%の場合は 800、10%の場合は 1000 をセットしてください。

日付判定か否か(J列)、軽減税率の日付判定か否か(K列)のいずれかに「1」がセットされている場合は無視します。

(9) I列 : 軽減税率か否か(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0, 1

説明 : 税率が軽減税率に該当する場合は「1」、該当しない場合は「0」をセットします。日付判定か否か(J列)、軽減税率の日付判定か否か(K列)のいずれかに「1」がセットされている場合は無視します。

(10) J列 : 日付判定か否か(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0, 1

説明 : 税率を標準税率(日付判定)とする場合は「1」、標準税率(日付判定)としない場合は「0」をセットします。軽減税率の日付判定か否か(K列)が「1」の場合は無視します。

(11) K列 : 軽減税率の日付判定か否か(\*)

TYPE : 数値

有効値 : 0, 1

説明 : 税率を軽減税率(日付判定)とする場合は「1」、軽減税率(日付判定)としない場合は「0」をセットします。

## II 注意事項

### 1. Excel で CSV データを扱う際の注意事項

CSV形式のデータはExcelで編集できます。しかし、法人番号など桁数の大きな数値や年月日、ゼロパディングされた数値が含まれている場合、CSVファイルをExcelで開いた際にデータ形式が自動的に変換されてしまうことがあります。この自動変換が原因で、変換後にファイル保存をしてFXクラウドシリーズで読み込むと、データレイアウトと一致せず、エラーが発生することがあります。

<例1> 214000000→2.14E+08 (指数表記に変換される)

<例2> 2005-08-01→8月1日 (年月日がExcelの日付形式に変換される)

<例3> 0001→1 (ゼロサプレスされる)

このようなデータ形式の自動変換を回避する方法について、以下に記載します。

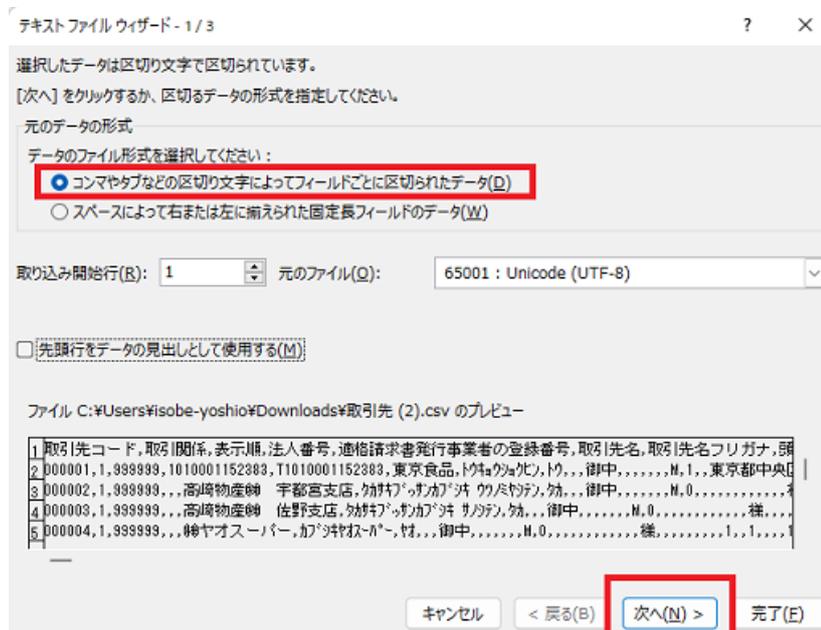
(1) Excel を起動します。(CSVファイルを直接開かないでください。)

(2) [ファイル]をクリックし、[開く]を選択します。

(3) 切り出したCSVファイルを選択し、[開く]をクリックします。

(4) インポートウィザードが表示されます。次の手順に従ってください。

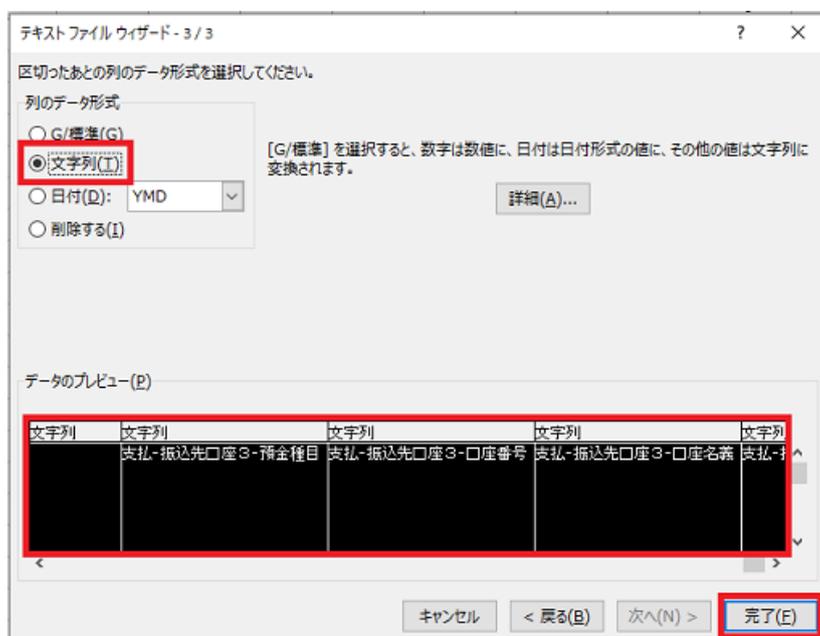
- ①「元のデータ形式」は「コンマやタブなどの区切り文字によって・・・」を選択して[次へ]をクリックします



② 「区切り文字」は「コンマ」にチェックし、[次へ]をクリックします。



③データのプレビュー画面で、すべての列を選択して黒色反転させます。  
(Shift キーを押しながら左右のスクロールバーを右端まで移動させて一括選択します。)  
「列のデータの形式」で「文字列」を選択し、[完了]をクリックします。



## FXクラウドシリーズ マスター情報読込マニュアル

---

令和7年06月20日

第15版発行 ©TKC

著者 株式会社 TKC

発行者 飯塚 真規

発行所 株式会社 TKC

〒162-8585 東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル 5F

---

不許複製

※記載されている会社名・製品名・システム名などは、各社の商標、または登録商標です。